

2026年東部部会第3回研究報告会の開催報告

日本中小企業学会東部部会の2026年度第3回研究報告会が対面で開催され、活発な議論が展開されました。

- 日時:2026年4月12日(日)14:00~16:00
- 参加人数:34名
- ホスト・司会:岡田浩一(明治大学)
- 開催場所:明治大学(駿河台キャンパス)リバティタワー7階 1073教室

- 【研究報告1】
報告者:菊池 航(立教大学)・宇山 翠(中央大学)
テーマ:「自動車部品量産事業からの脱却と変革:K社のケーススタディ」



報告概要:

自動車部品企業に関する研究は、これまで、量産部品事業における競争力の形成や取引関係の深化を中心に蓄積されてきた。他方で、電動化やグローバル化により自動車産業が大きな転換点を迎えるなか、量産部品事業からの脱却をどのように実現するのかは十分に解明されていない。

本報告のねらいは、量産部品事業からの脱却を実現した逸脱事例であるK社を分析し、この研究史上の空白を埋めることである。K社は、1960年頃からボールジョイントなどの量産事業を主力にしてきたが、リーマンショックを契機に量産事業からの撤退を決意し、多品種少量生産による開発試作部品事業を中心とする企業へ転換した。そして、2010年代には医療機器事業に進出した。研究の方法は、社長へのインタビューを中心とするトライアングレーションを用いたケーススタディである。

分析の結果、リーマンショック以前からの試作事業の経験、営業部門の再編、素形材メーカーや大学医学部との連携が変革を支えたことを示した。

報告後の質疑応答では、本事例を逸脱事例として採り上げることの妥当性や、ダイナミックケイパビリティ理論の扱い方、変革を成し遂げた経営者へのさらなる着目への必要性などが議論された。

■ 【研究報告 2】

報告者：三嶋恒平（慶応義塾大学）

テーマ：「縮小局面の都市型ものづくり地域における分業ネットワーク：大田区企業への継続的ヒアリング(2013-2026)から」



報告概要:

本報告は、大田区の製造業事業所数が1983年の9,177から2021年の3,584へと40年間でピーク比39%に縮小した一方、残存事業所の付加価値生産性は維持され、承継世代ほど業績・受注形態・取引エリアが改善したことに顕在化された量的縮小と質的向上というギャップに着目した。そこで本報告は起業家的エコシステムと大田区を巡る先行研究をレビューし、承継世代のありよう、インフォーマルな場の関係、ネットワークの動的な理解というリサーチギャップを示し、縮小しつつある産業集積において集積機能はいかなるアクターのいかなる相互作用によって維持または喪失するのかというリサーチクエスチョンを設定した。

本報告は大田区景況調査(2011～2025年)と大田区実態調査(2025年)から、産業集積の担い手は2代目、3代目の経営者群であること、市場・情報・人材・技術・価格交渉という複合的な作用が見られたこと、集積は維持か消滅かという二者択一ではなく多様な条件により変化しうることを明らかにした。

なお本報告はマクロデータによる外部環境の確認にとどまり、個別企業への継続的な調査による分析は次稿での報告とされた。

報告後の質疑応答では、大田区に関する先行研究の議論を踏まえることの必要性が指摘された。また、起業家的エコシステムや、経営者の代替わりが進む中での「仲間回し」の継承プロセス、大田区の経営者がインフォーマルな関係を具体的にどのように構築してきたのかなどについて、議論がなされた。

以上